

# いじめの基本的な認識(個人情報に配慮する)

(資料1)

## いじめの構造

### いじめ

当該児童生徒が一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの

#### 4層構造

- 被害者・・・いじめられている子
- 加害者・・・いじめている子
- 観衆・・・いじめをはやしたて面白がったりして見ている子(いじめを強化する存在)
- 傍観者・・・見て見ぬふりをしている子(いじめを支持する存在)

## いじめの種類

### ことばの暴力

(冷やかしの・からかい・悪口)

- ・あだ名、悪口を言う。
- ・「〇〇死ね」と言う。
- ・やじる、はやしたてる。
- ・こそこそ話をする
- ・「きもい」「うざい」「殺す」

### 暴力

- ・殴る、蹴る、小突く、つねる。
- ・頭髪を引っばる。
- ・プロレスごっこに見せかけ痛める。
- ・足を掛けて転ばせる。
- ・周囲を囲み、ズボンや下着を下げる。

### 仲間はずれや集団による無視

- ・相手にしない。
- ・知らんふりをする。
- ・話しかけない。口をきかない。
- ・遊びや運動に入れない。
- ・話し合いに入れない。
- ・近くに寄らずに避ける。
- ・にらみつける

### たかり

- ・物品や金銭を要求する。
- ・食べ物をおごれと強要する。
- ・家から金銭を持ち出すように命じる。
- ・万引きするよう命じる。
- ・物品の交換や、いらぬものを買うように要求する。

### 言葉での脅かし

- ・「チクるとただではすまんぞ」
- ・「ひどい目に遭わせるぞ」
- ・言われたくないことを何度も言う

### いやがらせ

- ・相手が途方に暮れているのを見て楽しむ
- ・持ち物にいたずらをする。こわす。隠す。
- ・机を送らない
- ・落書き
- ・机を離す

### その他

- ・用足し、着替え、食事等の際にのぞき込む。
- ・用事を言いつけ、相手を酷使する。
- ・言いがかりをつけ、不快そうな表情や素振りをする。
- ・虚偽の情報や噂を言いふらす。
- ・パソコンや携帯電話で、誹謗中傷やイヤなことをされる。

## いじめの背景

### 家庭における要因

- ① 基本的な生活習慣や生活態度が十分に身に付いていない。(思いやり、正義感、善悪の判断等)
- ② 家庭が「やすらぎの場」になっていない。
- ③ 親子の間に、心の通い合う場面が少ない。
- ④ 親がしつけに不安を抱いている。
- ⑤ 親が家庭で子どもと触れ合う機会が少ない。
- ⑥ 経済的に苦しく子どものことに気がまわらない

### 子どもの心理

- ① ストレスが身体症状、行動面に表れやすい。
- ② 自己価値観に敏感である。  
→不安、イライラ、無気力、抑うつ
- ③ 自尊心の傷つきを暴力、いじめで癒す。

### 学校における要因

- ① 子どもと教師の信頼関係がうまく築けない。
- ② 一部の子どものみが認められたり、評価されたりする。単一の尺度で評価する。
- ③ 何がよいか、悪いか、基準が明瞭でない。
- ④ しめつけが厳しすぎ、窮屈な雰囲気である。
- ⑤ 競争関係が激しすぎる。
- ⑥ 授業が分かりにくかったり、進度が速すぎたりする。

### 社会全体の要因

- ① 地域全体で子どもを育てるという意識が低下している。
- ② ゲーム等による遊びの孤立化によって、社会性が育ちにくい。
  - ・ 人間関係を築くルールやノウハウを十分に身に付けられない。
  - ・ 人との関わりを面白さでカモフラージュする。
- ③ 「いじめを絶対に許さない」「いじめは絶対許されない」という意識が不十分である。
- ④ 異質なものを排除しようとする傾向が広くみられる。
- ⑤ 社会全体に人間関係が希薄化してきている。
- ⑥ 自己中心的でモラルを欠いた大人の行動が子どもたちに影響を与えていく。
- ⑦ 道徳性のないテレビ番組が増えている。